

日本地衣学会

No.65

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信	229
	日本画家 下村観山の描いた地衣類(続編) / 安斉唯夫	229
	The 5th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology (1st Circular) / Kunio TAKAHASHI	232

会員通信 From Members

日本画家 下村観山の描いた地衣類 (続編)

Lichens drawn by a modern Japanese-style painter, Kanzan Shimomura (2)

安斉唯夫 (Tadao ANZAI) : ゼルゲプランニング

垂らし込み技法による地衣絵

「木の間の秋」には立ち並ぶ木々にそれぞれ異なる地衣類が描かれているが、中には痂状地衣類とも葉状地衣類とも判別のつきかねる地衣類が描かれている(図4上; 図1から5までは本誌62号に掲載された拙著を参照のこと)。こげ茶色に縁取られ、中央部が青から褐色で描かれたこの地衣絵は、「垂らし込み」という日本画の伝統的な技法が用いられているようなので、ここで仮に「タラシコミチイエ垂込地衣絵」と名付けることにしよう。「垂らし込み」は絵の具の滲みを利用しているため出来映えのコントロールが難しいと想像されるが、観山はこの手法でひしめきあう地衣類を見事に表現している。彼はこの技法を使うとコケがうまく表現できることを知り、様々な作品で用いたようである。

「木の間の秋」の「垂込地衣絵」は樹皮上でほぼ円形をしているため、比較的成長の早い葉状地衣類ではないかと想像できる。樹皮上で円形をした同様の「葉状垂込地衣絵」は「小倉山」(1909 [明治42年] / 図6)にも見いだすことが出来る。

嬉しいことに「小倉山」には「痂状垂込地衣絵」とでも呼べる樹皮上の痂状地衣類も描かれてる(図6右上)。

広葉樹の滑らかな樹皮に描かれた地衣絵は横に細長く伸びて描かれ(図6中)、地衣類の生長より幹の生長の方が早い痂状地衣類の特徴を観察することができる。さらに観山は、驚くべきことに波の砕ける岩礁に無数の地衣類を描いている(図7)。「鶴鷗図」(1901 [明治34年])にみることのできる黒く縁取られた円形模様は、波の飛沫、といった解説もあるが、私は地衣類と断じて疑わない。それは、海岸を描いた一連の作品の中には波が描かれずに上記の円形模様がみられる作品もあるからである。ここで疑念を抱かれた方は、銚子海岸で撮影したホシスミイボゴケ、キッコウアナイボゴケ(図8)をご覧ください。似ている、と思うのは私だけではないと信じている。

樹状地衣類はどう描かれているか

サルオガセ等の垂れ下がる地衣類は絵になりやすいように思えるが、意外に少ない。しかし、観山はサルオガセを見逃す訳が無く、「松二鶴」(1927 [昭和2年] / 図9)においてそれと思われる地衣絵を残している。樹幹から垂れ下がる様子は一見するとシダ類やラン科の植物、はたまた藓苔類のイトゴケ類のようにも見え



図6[上・中]. 「小倉山」(明治42年). 左上: 「小倉山」の一部. 右上: 右の樹幹に描かれた円形に近い垂込地衣絵. 中: 中央奥の樹幹に描かれた痂状地衣類を思わせる横に細長い垂込地衣絵.



図7[下]. 「鶉鳴図」(明治34年). 左下: 「鶉鳴図」の一部. 右下: 岩上に描かれた垂込地衣絵.



るが、無数の細い筋が元で束ねられた様な外形、湿った雰囲気を感じられないことからサルオガセと判断して良さそうである。

観山以外の日本画家では、五百城文哉(例えば「巽嶺群芳之図」)や山元春拳「しぐれ来る瀕峡」にサルオガセやカラタチゴケ、あるいはハリガネキノリらしき樹状地衣類をみることが出来る。

苔の景観

地衣類の絵を探していると、同じコケでも蘚苔類より

地衣類の絵が多いことに気づく。地衣類のサイズが比較的大きいことや、地衣体の縁が蘚苔類に比べて明瞭で描きやすいためではないかと考えられる。しかし、中には地衣類か蘚苔類か判断のつきかねる作品もいくつか見られる。

図2上は前出の「大原御幸」の一部であるが、中央部から周囲に向かって次第に淡い色調と変わり、蘚苔類のようにも見える。色調が青白い特徴は菌類系の生物のようにもみえるため、やはり地衣絵として扱って良いかもしれない。



図8[上]. 銚子海岸で撮影した海岸岩上の地衣類。
左上：ホシスミイボゴケ。右上：キッコウアナイボゴケ。いずれも2002年4月、著者撮影。

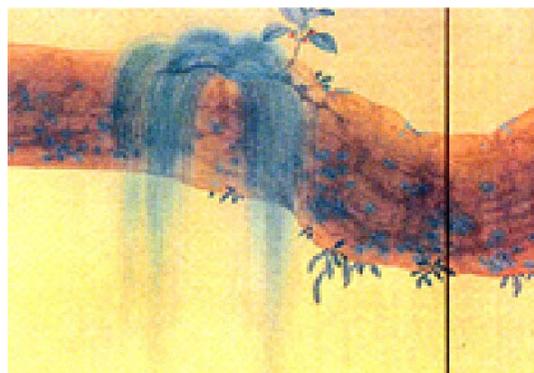
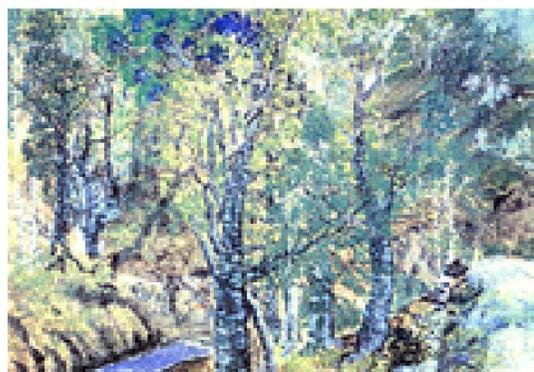


図9[中]. 「松二鶴」(昭和2年)。枝に描かれたサルオガセを思わせる地衣絵。

図10[下]. 「信濃の山路下絵」(明治40年頃)。
左下：「信濃の山路下絵」の一部。右下：樹皮を覆う蘚苔類と判別のつかない苔の絵。...



また、「信濃の山路下絵」(1907 [明治40年頃] / 図10)の広葉樹には幹肌を隠すほどの苔が描かれ、山地における苔の景観がよく現れているが、これも蘚苔類か地衣類か判別困難な作品である。

こうした地衣類や蘚苔類が混然と着生している景観に接すると、苔の景観、としか表現できない自分に改めて気づくのである。

観山の待つ五浦へ

観山は日本美術院の岡倉天心、横山大観らと共に茨城

県の五浦に居を構え多数の作品を生みだした。しかし、都から遠く離れた地での生活は困窮したという。

福島県との県境にほど近い五浦の海岸は、太平洋の荒波が削り取った断崖の続く景勝地である。

天心記念美術館の建つ五浦を訪れ、波濤のうち寄せるこの岩礁に海岸生の痾状地衣類が本当にあるのかどうか、私は確かめたいと願っていた。この冬その機会に恵まれ、地衣絵仲間の小山内氏と共に五浦に向かった。日本美術院研究所跡や六角堂を巡りながら海岸を遠望し、また波打ち際に降り立ち、痾状地衣類が着生していない

か探したが、残念なことに見つけることは出来なかった。しかし、散策路の松には見事なウメノキゴケやマツゲゴケが着生し、観山はこうした風景に囲まれて地衣類を見つめ、作品を生みだしていったのだと実感することが出来た。

図の出典

図 6. 下村観山／小倉山：観山画集（二分冊）；大日本絵画（発行），1981年

図 7. 下村観山／鶴鷗図：静岡県立美術館・滋賀県立近代美術

館共同企画展日本画の情景-富士山・琵琶湖から図録；静岡県立美術館・滋賀県立近代美術館（編），静岡県立美術館・滋賀県立近代美術館（発行），2000年8月15日

図 8. 写真ホシスミイボゴケ：2002年4月千葉県銚子海岸にて筆者撮影

図 9. 写真キッコウアナイボゴケ：2002年4月千葉県銚子海岸にて筆者撮影

図 10. 下村観山／松二鶴：観山画集（二分冊）；大日本絵画（発行），1981年

図 11. 下村観山／信濃の山路下絵：観山画集（二分冊）；大日本絵画（発行），1981年

News and Announcement

The 5th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology (1st Circular)

Saturday, July 8 – Sunday, July 9, 2006

**Meiji Pharmaceutical University,
Godokaikan bldg**

*Kioicho 3-27, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0094,
Japan.*

4 minutes by foot from No. 1 Exit at Kojimachi
station of the Tokyo Metro, Yurakucho line.

Sunday

9.30am-12am Oral presentation I

12am-1pm Lunch time

1pm-2pm Oral presentation II

2pm-3pm Symposium II

“Science of Cultured Mycobionts from
Lichens”

3pm-5pm Oral presentation III

5pm- Closing ceremony

Tentative Costs

Member Registration Fee --¥3,000

Student Member Registration Fee -- ¥1,000

Member Banquet Fee --¥5,000

Student Member Banquet Fee --¥2,000

Programme

Saturday

10am-12am	Council meeting
12am-1pm	Lunch time
1pm-3pm	Annual general meeting
3pm-3.15pm	Coffee break
3.10pm-3.15	Opening ceremony
3.15pm-5.50pm	Symposium I “Science of Fungal Secondary Metabolites”
6pm-7.45pm	Banquet

Registration and Submission

Details are going to be announced by 2nd circular in April.

Contact:

Kunio Takahashi (Overall Meeting Chair)
Department of Pharmacognosy and
Phytochemistry
Meiji Pharmaceutical University
Noshio 2-522-1, Kiyose-shi, Tokyo 204-8588
E-mail: diamonds@my-pharm.ac.jp
Phone & fax: +81-424-95-8912

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌62号222ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 62, p. 222 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 65号

発行日：2006年 3月 22日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内